

天才パーカッション集団・タンブッコ 長久手 D A Y S



長久手市文化の家 事業係 生田 創



芸術性豊かな、見て聴いて楽しいパフォーマンス

映画「007スペクター」の公開を控えた2015年10月、この映画の音楽を担当した世界的なパーカッション・グループ《タンブッコ》が長久手にやってきました。

ご縁があって「タンブッコが、長久手公演のために新作を書き下ろす準備がある」というお話が舞い込んだのです。この千載一遇のチャンスを逃すはずもなく公演が実現しました。その新作とは名古屋を拠点にインドネシアの民族楽器ガムラン・ジェゴグ（竹の木琴のようなもの）を演奏する打楽器グループ・スカルサクラのために、タンブッコのリーダーであるリカルド・ガヤルドさんが作曲した《カフェ・ジェゴグ》でした。

タンブッコは、6日間にわたって長久手に滞在しました。彼らはなんと、この新作を含む新譜のレコーディングのために文化の家を選び、最高の音質で世界に発売されることになったのです！

リハーサルで何より驚いたことは、4人がどんな距離で演奏していても必ずピタリと呼吸が合っていること、そして、完全に同じテンポ感とリズムを共有していることでした。それも、何事でもないような涼しい顔で…。そこから生まれる音楽は、超自然のリズム感と洗練の極みともいえるものでした。



調理器具を手に子どもたちと

公演前日には、市内の小学生350人を招いて、参加型のコンサートが行われました。子どもたちをみると何やら食器や調理器具を手にしています。そう、これはタンブッコが事前に仕組んだ参加プログラムでした。メンバーの指示でまずは小さな音から自由に音を鳴らし始めると、その響きはなんと小雨が降っているよう！それはまるで宇宙にこだまするかの様に神秘的でした！少しずつ音を大きくしていくと土砂降りの大雨に。「日常にあるものも感じ方一つで楽器にも音楽にもなるんだよ」と、リカルドさんは子どもたちに伝えていました。

本公演は、打楽器のために書かれた名作のオンパレード！カホン、マリンバ、スネア、ティンパニなど無数の打楽器を縦横無尽に操り、4人の天才的な感性が結合した圧倒的なステージでした。最後はいよいよ《カフェ・ジェゴグ》の世界初演。入念なリハーサルから生まれた音楽は、モダンでスタイリッシュなセンスが光り、同時に地の底から湧きあがる土着的な響きが絶妙に結びつく名演で、新しい歴史が生まれた瞬間でした。

年が明けて1月、この演奏はCDとなって発売され、レコード芸術誌（音楽之友社）の月評で特選盤の評価を受けました。この名演の記録をぜひみなさんもお聴きください。



タンブッコと打楽器グループ・スカルサクラ



カフェ・ジェゴグ／タンブッコ

マイスターミュージック

MM-3067

録音：2015年10月

長久手市文化の家森のホール